

【前提】 福島復興再生特別措置法に基づく「重点推進計画」 第2部の4(1)イ②伝承館を起点とする地域交流の促進・情報発信

調査・研究事業のミッション

これまでの福島における災害発生への対応、復旧・復興に係る経験と記録を教訓として体系化し、教訓を抽出するとともに様々な手法で情報発信を行うことで、復興及び防災を担う人材の育成を図ることを目的とし、下記をミッションとして掲げる。

【教訓の体系化】

複合災害、特に原子力災害とそこからの復興過程に関する実態に係る資料を収集し、調査・研究を俯瞰的に行い体系化し、そこから得られる教訓の抽出を通じ、復興及び被災防災に寄与する。

【教訓の発信】

蓄積・体系化された教訓を広く世界に還元するため、積極的な情報発信や調査・研究成果をもとにした専門的研修プログラムの構築や展示・プレゼンテーション事業への反映等広く発信する。

【人材の育成】

複合災害、特に原子力災害と復興研究の先駆者として、新たな知の体系化と、その学術的価値の確立を先導していく研究者、防災・減災、復興を担う人材を育成するとともに、広く福島に関心を抱く方が集い学ぶことのできる知の拠点としての役割を果たす。

調査・研究事業の中期的目標（R6までに目指すべき姿）

○研究事業の体制確立及び実施

館長、上級研究員3名及び常任研究員5名が、国内外の東日本大震災に関わる研究者と連携した研究体制確立

○研究成果の集積及び発信

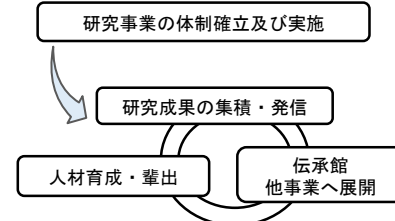
- ・収集資料の研究や現地での研究活動による論文投稿、学会発表及び文献執筆等の学術成果の集積、発信
- ・**学術研究集会等の実施**による国内外の研究成果の発信と集積
- ・毎年度**活動報告会**を実施し、研究活動経過（成果）を広く発信
- ・**国際機関や研究機関（F-REI（※）等）との連携**による研究活動及び成果発信。

○伝承館他事業への展開

- ・**企画展の実施等**による展示・プレゼンテーションへの反映
- ・研究成果等、研究員の知見を踏まえた**専門研修の造成**及び実施

○人材の育成及び輩出

- ・常任研究員を復興研究の先駆者として輩出
- ・企画展への反映及び学校等への専門研修実施による**防災教育への寄与**



実績

R2

- 館長、上級研究員による座談会（R3.3.1）等の実施による**研究体制の検討**
- 常任研究員採用活動 ⇒ 採用なし
- 研究事業周知用**の調査研究パンフレット作成、HP掲載
- ・文献の収集
- ・**活動報告会（R3.3.12）**

↓調査・研究パンフレット



調査・研究パンフレット

R3

- 研究員採用活動 ⇒ 4名採用（R4～）**
- 客員研究員 26名委嘱
- ミッション研究開始**（客員研究員との共同研究）（高村館長）
- ・東京電力福島第一原子力発電所事故関連アーカイブ・証言の収集と解析（安田上級研究員）
- ・**放射線防護対策調査**
- ・伝承館設立時における伝承内容の検討経緯に係る調査業務（関谷上級研究員）
- ・被災対応および復興対応の記録収集
- ・学術的な総括検証（原子力災害全書の作成）（開沼上級研究員）
- ・**避難地域郵送調査の実施**
- ・災害への理解を深めるシミュレーションボードゲーム作成等
- 活動報告会（R4.3.12）**

R4

- 研究員採用活動 ⇒ 1名内定（R5採用）**
- ミッション研究継続
- 常任研究員4名含む研究体制の確立及び活動開始**
- ・常任研究員研究テーマ
 - ↳東日本大震災・原子力災害における教育復興
 - ↳複数の主体による地域アイデンティティの再構築過程の研究
 - ↳復興における祭祀の意味 等
 - ↳原子力災害による広域避難者に関する研究：要配慮者を中心に 等
 - ↳科学技術社会論の枠組みによる「教訓の継承」の展開に向けた基礎調査
- 各研究員活動の研究成果発信（R5.2.28時点）
学術論文5件、講演・講義15件、口頭・ポスター発表14件、その他（取材等）23件
- 科研費等外部研究費獲得に際した文科省への研究機関登録（外部資金採択2件）
- 学術研究集会（R5.3.16～17）**
- 活動報告会（R5.3.18）**
- 成果に基づく専門研修の検討



←学術研究集会チラシ（R5.3.16～17）

【F-REI等との関わり】

・国際シンポジウムへの参加（R5.3.13～14）

< 実績・効果に対する内部所見 >

- 開館以降、これまで館長及び上級研究員が主体となり、伝承館の**調査・研究事業の基礎体制を検討・構築**
- 常任研究員4名採用により、本来計画していた研究体制が整い、今年度から研究事業が本格化
- 学会発表、地域イベント（公開対談）や学術研究集会等の実施により伝承館の調査・研究部門活動と事業周知が加速

< 課題 >

【課題】研究成果の体系化と伝承館他事業への展開

・研究成果の体系化構築と中長期的な展望の共有
・成果に基づく専門研修プログラム作成や企画展示・常設展示への波及の検討

【課題】国内外への情報発信の強化

・F-REI等、関係機関とのさらなる連携による複合災害に関する研究成果の共有及び国内外への情報発信が必要

今後の取組(案) ⇒ 継続・発展

R5

- 研究活動及び成果発信の継続
- 学術研究集会の継続実施
- 企画展示等の検討
- 専門研修の検討、試行
- 国際機関と連携及び国外への情報発信**

今後の方向性(案)

- 研究内容**
- ・社会情勢に鑑み、復興の過程で生じる新たな課題への調査・研究
- ・研究成果の体系化
- 研究員体制**
- ・館長、上級研究員、常任研究員等で構成される**現体制の継続**
- ・未着手の分野及び新たな課題を踏まえた研究員確保
- ・常任研究員OBとの連携継続
- 研究成果の発信**
- ・積極的な発信を継続し**国内外への情報発信をさらに強化**
- ・伝承館研究成果を国際関係機関と共有
- 研究成果の集積**
- ・国外研究者も交えた学術研究集会、シンポジウム等を継続し、**国際的な知見を集積**
- 伝承館展示等への反映**
- ・企画展や常設展示へ集めた研究成果を反映
- 研究成果に基づく研修の充実**
- ・集めた研究成果を活かし、より専門性の高い業種（自治体職員及び医療従事者を含む防災関係者等）に焦点を当てた研修プログラム構築
- ・未着手の分野の補完を進め、東日本大震災を更に網羅的に学べるプログラム作成

【F-REI等との関わり】情報集積、発信等の連携